

学長のコラム

本学の立ち位置を理解し、将来を考える。

学長就任以来、10ヶ月が過ぎようとしている。この間、各種マスコミから取材を受けるたびに本学の規模や教育研究体制などの把握に努め、取材に対応してきた。学生数は約1,500人、教員100人余、全国の国公立大学約800校の中では小規模大学に属する。医療系の高度職業人育成に特化した大学である。カレッジマネジメント211号(2018年リクルート刊)の分類に従えば、カテゴリーキラー(ニッチャー)に相当すると考えられる。”カテゴリーキラー”とはマーケティング業界の用語であるが、業界内でのシェアは少ないものの、独自のブランドや個性によって、特定市場の支持を集める小売店業態という意味である。大学に置き換えると、規模は小さいものの教養、医療、国際、資格取得等の特定分野に強い大学ということになる。

カレッジマネジメント誌編集長の小林浩氏を招いて、1月9日にSD研修会(講演会)を実施した。本邦の18歳人口は引き続き減少し、2017年の120万人から2030年には104万人にまで減り、大学進学率を現状のままの50%と仮定すると、大学進学希望者数は8万人の減少となるという。単純計算すると、入学定員500人規模の大学が160校消失する。大学生生き残りのためのカテゴリーキラーの戦略としては、「本学ならではの価値」を明確化し、どのような人材を育成するかをはっきりさせる必要がある。例えば、看護系であれば、大学院を強化し、特定の専門領域に強い看護師、チーム医療に強い看護師、ホスピタリティーにあふれる看護師、英語が堪能な看護師などの付加価値を身に付けさせることが重要という。この方向性は医学検査やリハビリ領域でも同様である。

本学の立ち位置を理解した上で将来を考えると、仕事始め式の年頭挨拶でお話した様に、以下の3つが重要と考える。①教育内容の充実を図り、それぞれの領域で特色ある知識・技能を有する医療人を育成する。②ワンランク上の高度専門医療人育成のために大学院を充実させる。さらに、③教育の幅を広げるとともに経営安定のために新学科を増設する。これらを実現させるためには、理事長・学長や執行部が旗を振るだけではだめで、全学が一致して行動をおこす必要がある。年末に開催された「私立大学の新任学長セミナー」(東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策コース主催)では、アドバイザーとして参加の7私立大学の学長が、異口同音にPM理論の重要性を指摘された。大学トップがPerformance「目標達成能力」とMaintenance「集団維持能力」の両方を発揮してこそ、大学運営が軌道に乗るということである。PM理論を実践し、教職員の皆さんと十分な意思疎通を図り、目標に向かって進んでいきたい。



健軍神社の初詣

2月・3月の主な行事予定

2/4(火)	一般入試
2/6(木)	※一般入試(予備日)
2/7(金)	看護学科キャリア教育セミナー(九州外施設)
2/8(土)	久しぶり元気かい(会)
2/10(月)	看護学科キャリア教育セミナー(九州内施設)
2/14(金)	一般入試合格発表、臨地実習連絡会議(医学検査学科)
2/21(金)	令和元年度地域包括連携医療教育研究センター活動報告会
2/28(金)	臨地実習合同会議(看護学科)
2/29(土)	大学院一般選抜、社会人選抜(Ⅱ期)入試 認定看護師教育課程(脳卒中看護)・特定行為研修入試
3/2(月)	教員対象就職指導者研修会
3/6(金)	センター利用(後期日程)入試 大学院一般選抜、社会人選抜(Ⅱ期)入試合格発表 第2回情報セキュリティ研修会
3/10(火)	認定看護師教育課程(脳卒中看護)・特定行為研修入試合格発表
3/13(金)	卒業・修了式、センター利用(後期日程)合格発表
3/16(月)	第2回FDセミナー
3/18(水)	銀杏学園 理事会・評議員会
3/19(木)	学内研究助成・研究成果報告会(予定)
3/25(水)	大学教育改革推進プログラム(学長裁量経費)成果報告会
3/28(土)	春季オープンキャンパス

国家試験 試験日と合格発表日

国家試験名	試験日	合格発表日
臨床検査技師	2月19日	3月23日
理学・作業療法士	2月23日	
言語聴覚士	2月15日	3月26日
看護師	2月16日	3月19日
保健師	2月14日	
助産師	2月13日	

令和元年度 永年勤続表彰者

学園永年勤続表彰者をご紹介します。

- ◆20年 就職・実習支援課長 久保田 憲寿
- ◆10年 看護学科 教授 中村 京子
- 看護学科 准教授 恒松 佳代子
- リハ学科 准教授 益満 美寿
- リハ学科 講師 陣上 修一
- 事務局長 河瀬 晴夫



令和元年度第2回 ピア・サポーター & プチ・サポーター養成講座

令和元年12月21日(土) プチ・サポーター&ピア・サポーター養成講座を開催し、プチ・サポーター32名、ピア・サポーター39名が参加しました。今回の講座は、「多様な学生とは・・・何が支援できるか」をメインテーマとして実施されました。耳栓を使った難聴者の聞き取り辛さの体験のほか、「発達障害のあるクラスメイト」、「こころのバリアフリーについて学ぼう」の動画鑑賞後、グループワークを行いました。講座終了後には、「障がいや多様性についての理解を深め、自分の行動を振り返る良い機会になった」「一人ひとりに個性があり、それを認めていく社会を作ることが大切」「学んだことを参考にしつつ実践していきたい」などの感想が寄せられました。

(文責：学生相談・修学サポートセンター)



チャレンジ熊保大！一般入試対策講座

12月8日(日)にチャレンジ熊保大！一般入試対策講座を開催し、269名の高校生、保護者様にご参加いただきました。

当日は熊本の大手予備校「壺溪塾」の講師陣にご協力いただき、10時から16時45分まで直前期の受験勉強の指針を教授いただきました。また、保護者様のための入試説明会や大学見学ツアーも実施し、本学に対するご理解を深めていただけたと思います。ご支援いただきました教職員の皆様、大変お疲れ様でした。(文責：広報課)



相互授業参観

教員の授業改善・教育力向上に資することを目的として「相互授業参観」が12月23日(月)、キャンパステラスで実施されました。公開されたのは、全学1年次生向けに本年度から開講された「アカデミックスキルⅡ」の理学療法学専攻クラス13回目の授業です。

授業では、前週までにグループで協力して書き上げたレポートを基にポスター作成に取り組みました。冒頭、アカデミックスキルラボの中村隼人上級指導員(理学療法学専攻4年)が、ポスター作成の基本について説明。受講生の中から選ばれ、先行してラボで指導を受けたリーダー学生の1人が模範発表を行った後、グループごとにポスター内容の検討に入りました。

「アカデミックスキル」の特徴は、学生が主体となって進める授業形態を取っているという点です。同ラボが学修支援を行っており、今回の授業でもラボ指導員が作成したミニテキスト「ポスター作成の基本」が使用されました。

教職員に加え、理事長、学長、学部長が参観に来られ担当教員に質問するなど高い関心を持っていただきました。

(文責：共通教育センター 渡邊淳子)



第9回サイエンスカフェ

第9回サイエンスカフェを開催しました。演者は、竹屋元裕学長、テーマは『マクロファージは腫瘍増殖を促進する～第4回保健科学国際シンポジウム(タイ・コンケン)の報告とともに～』。11月初旬にタイで開催されたシンポジウムでの発表内容とタイ滞在中の熊保大チームの活躍について報告されました。教職員ら46名の参加があり、研究について熱いディスカッションが行われました。また、本学研究者の海外へ向けた活動について学長からの助言もありました。次回第10回は1月に開催します。詳細は本学図書館ホームページをご覧ください。<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/> (文責：図書館)



私の秘話ヒストリー

今回は共通教育センターの森 友子さんに投稿していただきました。

高校1年の春休み、少女漫画雑誌の読者レポーターとして、ハワイに行けることになった。その頃、留学を夢見ていて、応募動機にそのことを書いたのを覚えている。メンバーは中3から高3までの女子6人。九州からは私ひとりだったが、すぐに打ち解け、ハワイではたくさんのハッピーな、そして貴重な体験をさせてもらった。

特に心に強く残っているエピソードがある。私がビーチで海に潜ったりして遊んでいると、近くにいた地元の女の子と目が合い、一緒に遊び始めた。少し年下でポリネシア系(?)だったように思う。家族でピクニックに来ているので、テントに遊びにおいて、と誘われた。引率の編集者にOKをもらい、みんなで行った。大家族に迎え入れられ楽しく歓談していた時、お父さんが尋ねた。「パールハーバーには行ったかい？」真珠湾攻撃や太平洋戦争のことが頭をよぎり、一瞬言葉に詰まった。「日本人ならパールハーバーを見といたほうがいいよ」と言ったお父さんの、笑顔の中の真剣なまなざしが今も忘れられない。